

令和6年度学校評価計画

学校名	佐賀市立諸富中学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<p>・学力の向上については、校内研修部を主体とした全職員による取組を実践した。生徒の学習へ向かう態度や学習状況調査結果等に成果が表れつつある。今年度の課題を踏まえながら来年度も取組を継続したい。</p> <p>・学年担当全員で実施した道徳教育や、全職員で情報共有し対応した生徒指導については、生徒や保護者による取組についてのアンケートの肯定的な回答が9割前後となっている。来年度も引き続き全職員による取組を推進する。</p> <p>・教育相談の充実については、教育相談部会を中心とした全職員による対応とカウンセラーや支援員との密な連携を図ったことで、不登校生徒数が昨年度より減少するなどの成果を得ることができた。引き</p>
------------------	---

2 学校教育目標	夢をもち たくましく 挑戦する 生徒の育成 創り、つなぐ ～ 夢 絆 伝統 ～
----------	--

3 本年度の重点目標	<p>①地域とともにある学校づくり(コミュニティースクールによる学校・家庭・地域との連携・協働)</p> <p>②生徒の主体的・対話的で深い学びの実現(確かな学力を身に付けさせるための授業改善)</p> <p>③生徒指導、特別支援教育の充実(いじめや不登校の未然防止のための組織体制の整備)</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標

(1)共通評価項目			
評価項目	重点取組		具体的取組
	取組内容	成果指標(数値目標)	
●学力の向上	○生徒が主体的に学習に取り組む授業づくりと、望ましい学習習慣を育む学習基盤づくり	○話し合う活動や書く活動を「積極的に取り組んだ」について肯定的な回答をした生徒の割合80%以上	・週4回、朝の時間に、「eライブラリ」を活用した取り組みを行う。 ・生徒用一人一台端末の活用、「授業づくりのステップ1・2・3」を生かした授業実践を行う。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「道徳の授業を通じて、心豊かに成長できている」について肯定的な回答をした生徒の割合80%以上	・生徒が人権や命の大切さを認識するために、全職員による道徳授業や人権集会などを実施する。 ・学習の成果を共有する場として、文化発表会にて学年ごとの「生き方」体験学習を行う。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○『いじめ防止基本方針』に基づいて、対策に取り組んでいる」について肯定的な回答をした教師の割合80%以上	・生活アンケートや定期教育相談を活用し、いじめや問題行動の早期発見・早期解決に努める。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・キャリア教育の一環として「職場体験」や「職業人に学ぶ」「先輩(高校生)に学ぶ」を実施し、高校で活躍する卒業生や夢をもって人生を切り拓いている社会人から学ぶ機会をつくる。
●健康・体づくり	⑤「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	⑤健康の大切さを理解し、食生活に気をつけるようにしている」と肯定的に答えた生徒の割合80%以上	・家庭科、学級活動、総合的な学習の時間等を通して、望ましい食習慣の定着を図る。 ・毎日の登下校指導や、交通安全教室での講演や実技を通して、安全に対する意識を高めさせる。
	④「安全に関する資質・能力の育成」	④児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする。	
	○体育活動や部活動を通して、体力の向上を図る。	○「体育活動や部活動に熱心に取り組む、体力が向上したと思う」について肯定的に答えた生徒の割合80%以上	・生徒の心身の発達段階を考慮した体育活動や部活動指導の効率化を図りながら、効果的な部活動の運営を行う。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・衛生・健康管理委員会を複数回開催し、業務効率化の具体的方策及び職員のリソースマネジメント意識向上の進捗状況等について話し合う。 ・校務分掌間等の連携や情報の共有を図り、業務効率化の取組を組織で実践する。
●特別支援教育の充実	○全職員で対応する体制づくりと支援を要する生徒の指導や支援の方法の共有化	○「支援を要する生徒に対して配慮しながら指導し、情報共有することができた」について肯定的な回答をした教師の割合80%以上	・支援を要する生徒の把握や理解について、生徒指導協議会や特別支援教育部会を活用した情報交換を確実に行う。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			
評価項目	重点取組		具体的取組
	重点取組内容	成果指標(数値目標)	
○機能する生徒指導体制の充実	○生徒指導部を中心とした提案や連絡体制による組織で動く生徒指導体制の確立	○「生徒の話に耳を傾け、学年や周りの職員と連携して、生徒の心配事に対応しよう」と努力している」について肯定的な回答をした教師の割合80%以上	・生徒指導部会の運営を充実させることで情報を共有する。 ・職員研修等で職員のスキルアップを図り、問題行動の早期対応、未然防止に努める。
○特別支援教育の充実	○全職員で対応する体制づくりと支援を要する生徒の指導や支援の方法の共有化	○「支援を要する生徒に対して配慮しながら指導し、情報共有することができた」について肯定的な回答をした教師の割合80%以上	・支援を要する生徒の把握や理解について、生徒指導協議会や特別支援教育部会を活用した情報交換を確実に行う。
○教育相談の充実	○生徒の変化の早期発見と全職員で対応する支援体制づくり	○「相談事があったとき、先生たちは、あなたの話を聞いてくれている」について肯定的に答えた生徒の割合80%以上	・生徒の変化を早期に発見するために、毎月行うアンケート「自分と話をしよう」や定期教育相談を有効に活用する。 ・GR等を活用し、学年を超えた教師間の情報共有や、SCやSSW、サポート相談員との連携を確実に行う。
○地域と共にある学校づくりの推進	◎コミュニティースクールによる学校・家庭・地域の連携・協働の推進	◎「地域の方々とふれあう活動を積極的にやっている」について肯定的に答えた生徒、保護者の割合80%以上	・生徒の地域行事へのボランティア参加の促進。 ・「職場体験」「職業人に学ぶ」「夢づくり講演会」等、地域・保護者と連携した教育活動の更なる充実。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育